

平成 17 年度「特色ある大学教育支援プログラム」フォーラム・シンポジウム

日時： 2005 年 11 月 23 日 10:30 - 18:00

場所： 国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）

10:30 - 12:30 ポスターセッション

以下のブースにて説明をうけた。

1：鹿児島大学

「ISO を活用した教育システムの展開  
ーユニバーサルアクセス時代への展望ー」

水産学部

教育の改善を含めた品質保証の為に ISO9001 を取得した  
数名の教員が一年で認証取得

国内の機関による大学の ISO9001 認定はおそらくはじめて

2：東北大学

「融合型理科実験が育む自然理解と理論的思考  
ー大学初年次の理科実験教育ー」

高等教育開発推進センター

1 2 回に分けて、地球環境、物質、エネルギー、科学と文化、生命の総合的な分野をカバーする実験を行う

平成 16 年度に「自然科学総合実験」として開始されている

理科系全学部 1 年時生 1800 名が必修として受講

テーマの取りまとめ、教員の協力の取付が大変であった

3：東京電機大学

「学生の自主・自律を支援する個別重視型教育」

情報環境学部

授業時間の工夫（短縮化）講義 50 分×週 2-4 回、実習は 75 分×週 2 回

授業料の単位従量制（履修単位に応じた授業料：一定額前納、収支はとんとん）

導入教育とダイナミックシラバス・2 週間の導入教育、各自の 4 年間の履修計画を作成する。履修計画、履修状況による修正を卒業まで教員・スタッフが支援する。

4：岡山大学

「新機軸『学生参加』による教育改善システム」

教育開発センター

平成 13 年度より学生参画型教育改善が行われている

FD 委員会に学生も正式メンバーとして参加

新規の講義科目 eg. ドラえもんの科学など が短期間に実現されることもある

現段階では所謂教養課程までが対象となっている

5：富山県立大学

「フィールド実習をコアとした流域環境教育  
ー健全な水循環系構築に向けたシステム教育ー」

短期大学部環境システム工学科

フィールド実習をコアに関連する講義科目を合わせて流域環境を知る

実習は 15 年程の歴史がある

その他：日本工業大学、福井大学、九州女子短期大学、北海道教育大学、日本大学、フェリス女学院大学など

13:00 - 17:00 フォーラム

1：事例報告（内容は資料パワーポイントの図の通り）

1-1：慶應義塾大学

「文系学生への実験を重視した自然科学教育」

1-2：広島大学 + 山口大学

「工学系数学基礎学力の評価と保証・グローバルスタンダードをめざして」

1-3：宮崎県立看護大学

「到達目標を共有する教育プログラムの取り組み」

2：パネルディスカッション

事例報告をした大学から、(a)学内準備、(b)何故選択されたかについてコメントがあった。

慶應義塾大学

(a)3年連続採択されている。戦略としては、1年以上前より学長から指示あり。キャンパス内で秋より準備。アンケート調査等した後4月に申請。

(b)特色があった。これは規模や歴史、組織が評価されたものとする。

広島大学 + 山口大学

(a)年末に決定。年明けに申請を決定。準備はH15より。数年前より大学院、大学の英語、数学、国語の教育について学長とセンター長が方針を相談していたという歴史がある。

(b)複数大学が組んだ点が評価されたのではないかと（数学では特に難しい）。

宮崎県立看護大学

(a)開学（H9）より準備。申請者の薄井氏は前任の千葉大学で22年以上同様のシステム（ナイチンゲール看護論）による教育を行ってきた。

(b)H15ダメだった。内容はまったく同じで内容を分かりやすくしたらH16に採択された。

また、審査員から「どのような取り組みを評価するか」について意見が出された。

鈴木氏：各大学の理念にそった特色であるべき。方法論に優劣がある。あくまで学生が主人公であり、受け身の学生ではなく能動的な学生であるべき。地道な努力がなされていること（歴史がある）。

林氏：医・工学系の鮮明な計画が評価しやすかった。教養的なものについては重要性は認識しているが、評価が委員間で別れやすい。

岩見氏：PDCAは最低限必要である。その内容が大切。選択は全体10%であるが、8%は全員一致で選択された。残りの2%については評価が委員間で分かれた。学生とのコミュニケーション、インターアクションのプログラムへの反映が必要である。

最後に本プログラムは、あと2年間は募集されるとのことであった。

以上